

令和元年度第5回大船渡市協働のまちづくり検討委員会 議事録

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和元年3月27日(金) 午後3時00分から午後5時00分まで
- (2) 場所 大船渡市役所 議員控室

2 出席者

- (1) 委員7名 吉野英岐 千田尚順 若菜千穂 木下雄太 金野敏夫 遠藤和枝
佐々木義和
- (2) 事務局5名 企画政策部市民協働準備室
次長 新沼晶彦 主幹 菊地正展 主事 平野桃子
生活福祉部地域包括ケア推進室 主幹 鈴木弥生
教育委員会事務局生涯学習課 課長 熊谷善男

3 議事の経過

(1) 開 会

(2) 委員長あいさつ

吉野委員長より、「第4回の検討委員会は8月に開催し、それまでの議論を踏まえた中間報告を市長に提出した。地区においては、中間報告の内容に基づき先行地区においてワークショップ(以下WSと記載)が実施されている。本日は、その後の状況などを事務局から説明していただき、委員の皆様からの意見や要望を取りまとめ、今回をもって、本検討委員会に一旦区切りを付けることとしたい。」とあいさつがあった。

(3) 報告

① 地域づくり住民ワークショップの実施状況について

令和2年度もWSは続くので、検討委員会は一旦閉じることとし、来年度の開催は見送ることとする。

② 地区との協働に向けた今後の取組について

(4) 協議

以下について、資料に基づき事務局より要点を説明し、内容について協議を行った。

① 今後の検討事項について

(5) その他

(6) 閉 会

4 協議内容(要旨)

(1) 報告

① 地域づくり住民ワークショップの実施状況について

若菜委員)

- ・WSを実施する際には、若い人が来てくれるのかという懸念があるが、若い方、女性にも地域でしっかり声をかけてくれており、参加してもらうことができている。まだ2回しかやっていないのでまだ何とも言えないが、来た人は皆熱心に語り合ってくれている。
- ・地域の人に、若い人もしっかりと地域のことを考えているという事を伝えたい。

- ・地区運営組織につなげることができるかは、まだ2回しか実施していない段階では分からない。WSを実施して1年でできるのかという疑問もある。
- ・WSを実施する前に、地域の代表者ときちんと話をし、WS後はこうしたいという意見を伝えること、行政と住民の信頼作りが大事だと思う。まだスタート地点に立ったばかりだが、まずはよいスタートが切れたと思う

木下委員)

- ・自分はWSの際、住民が話し合うテーブルに入って話し合いの手助けをしている。WSに参加している人は地域から声を掛けられた人なので、地域で目立っている人なのだろうと思う。皆さんしっかり意見を出せる人が集まっている印象。また、自分が関わっている地区行事以外はあまり分かっていないのだなとも感じている。WSの最初の1、2回目で日頃市地区全体を知ってもらうことが大切だと思った。

遠藤委員)

- ・WSで若い人が熱心に話している印象。地域への想いを持っているのだと思う。今後のアプローチが大切だと思う。WS参加者は徐々に意識が変わっていくのではないかと思うが、WSに参加していない人の意識をどうやって変えていくかが課題だと思っている。

吉野委員長)

- ・WS参加者は50歳未満の人と各地域公民館の主事か。若い人が多いのか。

事務局（新沼次長）

- ・WS参加者は地区公民館と相談して決めており、若い人・女性にぜひ参加して欲しいとの考えに基づき、適切な条件を検討した。
- ・若い人といっても40歳未満だと人口が少ないので厳しいということで50歳未満を対象にした。
- ・女性については、年齢制限を付けないと婦人部長に偏って推薦される可能性があるため、50歳未満の方を推薦していただくこととした。
- ・地域を知らない人ばかりになると困るので、1人は地域公民館の主事にした。全員男性で、40～60代。

千田委員)

- ・住民の一人としてこの取り組みに感謝している。これまでも話題に出たが、高齢者目線で考えてもだめだと思う。日頃市地区でWSに若い人も参加していると聞き、よかったと思った。楽しんで参加してくれているのではないかと思う。自分たちが住むまちづくりを、後押しをしてあげたいと思う。
- ・今年度は市議会議員向けの研修会を実施した。議員にはもっと地域の取り組みを後押ししてほしい。そうすればもっと、若い人が動きやすくなると思う。

吉野委員長)

- ・13地区から3人ずつということで、39人が参加しているのか。

事務局（新沼次長）

- ・1か所、2人しか出せなかった地域がある。その他に、地区公民館推薦の2名を合わせて41名で実施した。地域公民館から推薦された人の状況を見て、地区公民館が推薦したもの。各地域公民館で、人探しに苦労したと聞いている。
- ・参加率は第1回目がおおよそ7割、第2回目がおおよそ6割だった。

千田委員)

- ・割と出席してくれた方だと思う。

若菜委員)

- ・WSに参加している方々の発言によれば、地区ごとにある郷土芸能を続けていきたいという思いがあるようだ。若い人が誇りを持ってやっている。

千田委員)

- ・町民運動会は不評だった。高齢化により競技に参加できなくなったことが原因だと思う。高齢化に合わせてもう少し中身を変えて、みんなが参加しやすく種目を組み替えるなどできればよかったが、今まで通りやろうとしたから続かなかった。
- ・日頃市町は郷土芸能への誇りがある地域。守って行ってほしいと思う

若菜委員)

- ・盆野球に女性が参加したいという意見もあった。

吉野委員長)

- ・日頃市町民アンケートの結果はどうだったのか。

若菜委員)

- ・結果を年代別でも分析したが、あまり世代間で差は出なかった。世代間の意識の差はそんなに気にせず、全体の結果から必要なこと・やりたいこと抽出して活動していけばいいと思う。

吉野委員長)

- ・自分は1度WSの様子を見に行かせていただいた。防犯協会、防災、交通安全、どこの地域にもあるのだなと思った。防ぐ組織、何かを守る会が多い印象を持った。地域を安全に安定させる活動が根付いている。その上に郷土芸能、スポーツなど楽しみの活動が乗っているのかなと思う。
- ・中心で全体をマネジメントする地区運営組織が無いとばらばらになってしまう。
- ・防犯系は縦型の組織で、市につながっているので、定期的に本部の会議に呼ばれることになる。それだけでも大変だと思う。一方で地域独自の会が郷土芸能。防犯組織とは作りが違う。
- ・福祉活動はどのような状況だろうか。

鈴木主幹)

- ・地区で自主的にサロン活動をやってきている。市はサポート役。もともとの立ち上げ方が違うので、活動は様々だ。
- ・日頃市地区は高齢化が進んでいる地域だとは思いますが、自立度は分からない。地区の連携は強いと思っている。

② 地区との協働に向けた今後の取組について

若菜委員)

- ・資料2で説明したのは地区公民館役員と議員か。

事務局(新沼次長)

- ・市民に対しては説明していない。地区と相談して市民への話し方を今後考えていく必要がある。

若菜委員)

- ・この資料では分からないと思う。一般市民に向けては話しをしないのか。取り組みを説明するパンフレットのようなものはないのか。

事務局（新沼次長）

- ・一般市民向けの説明は令和2年度に予定している

遠藤委員）

- ・令和2年度に総合計画策定のための懇談会が予定されている。その場で話をするということになると思う。そのほかの機会については地域と相談する。
- ・まだ広報にも載せていない

若菜委員）

- ・分かりやすい説明用のペーパーが1、2枚あってもいいと思う。

吉野委員長）

- ・広報の在り方、スケジュールについて考えていくべきではないか。

事務局（新沼次長）

- ・今は地区の館長・主事からも疑問が出ている段階。この方々に分からないことは、一般の人にも分からない。4月以降、各地区とのコミュニケーションを増やしたいと考えている。

金野（敏）委員）

- ・資料2のP3、4について。地区計画を作ってから地区運営組織に移行するのか。

事務局（新沼次長）

- ・基本的にはその順番で考えている。
- ・話し合いながら、アクションにつながることを考えていただきたい。将来何をするかを決めるのが地区計画、それを実現するための組織を考える、という順番の方が分かりやすいのではと考えている。

金野（敏）委員）

- ・計画をつくっても、それを確定する場はなかなかないのではないか。

事務局（新沼次長）

- ・地区によって地区公民館の運営委員会という意思決定の場が既にある。

金野（敏）委員）

- ・地区全体の在り方を公民館で決定できるかどうか疑問はある。

若菜委員）

- ・組織が無ければ計画決定できない。全国的に見ても、組織を作ってから計画を作る地域、その逆にする地域と、半々である。
- ・最終的な決定は組織が出来た後になる。組織と地区計画と、どちらを先に作るというかは地区による。組織から始める方が楽だとは思いますが、そうすると組織に合わせた計画になってしまう。
- ・新しい地区センターで何をやるかを決めて、それに合わせた組織を作った方がいいのではないかと自分は思っている。

吉野委員長）

- ・地区運営組織は執行組織であり、計画を回すためのものだから、議決組織は別途必要ではないか。そうでないと、そもそも地区計画は誰が承認したものかということになる。
- ・通常は地区運営組織ができるまでの間は地区公民館運営委員会のような組織にとりあえず議決してもらっている。地区運営組織が立ち上がってからは、地区運営委員に置かれる代議員に議決してもらった方がいいのではないか。
- ・地区運営組織を先に作るという方法もなくはないが、地域の個性に合わせたいと思う。その場

合も、何かしらの意思決定の方法もあるはずだ。

吉野委員長)

- ・地区公民館から、地区要望や地区懇談会への対応が大変だという声があると聞いたが。

事務局（新沼次長）

- ・地区要望は、集落単位で要望を取りまとめ、それをさらに地区単位にまとめて、議員と地区公民館から提出している。今のところは公民館の仕事と捉えられている。
- ・地区要望の中で道路に関する要望がやはり多く、担当部と地区が懇談する場が別途あるが、日程調整などが大変なのではないかと思う。
- ・交通指導員、衛生監視員など、地区代表を選んでほしいという仕事も多く、人口減少の中で人選に困っていると聞いている。

吉野委員長)

- ・地区運営組織は執行部であり、要望窓口ではない。

事務局（新沼次長）

- ・全部地区運営組織では解決できず市に頼む事項もあると思う。

吉野委員長)

- ・これまでが要望型の地域運営だったのだと思う。早くうちの地域からやって欲しい、出さないとやってもらえないという思いがあるのだと思う。
- ・長年やっているからやめられないのだろうが、こればかりやっているとしへの要望組織になってしまう。

金野（敏）委員)

- ・大船渡市は議会や市長に対する道路などの個別の請願は極端に少ない。それは、こういう場で議員と地区が自分たちで優先順位を付けて要望しているからだと思う。地域全体を見渡しながら、長年やってきてくれている。

吉野委員長)

- ・その分地区に負荷がかかっている。整理作業は地元が頑張ってくれている。頼りきっていると地元でまとめきれなくなるのではないか。見えない作業を結構やってくれていると思う。

千田委員)

- ・地区公民館から依頼されて、地域公民館で要望事項をまとめ、優先順位をつけている。それをさらに地区でまとめて順位付けして、10月に要望書出している。これには行政連絡員の活躍も重要だと自分は思っていて、修繕が必要な個所を見つけた際には建設課に連絡を入れてくれている。

事務局（新沼次長）

- ・行政連絡員の活動状況は地域によって異なり、誰がどの役割を分担するかは地区によって違う。

吉野委員長)

- ・上手く行政に要望した者勝ちのように聞こえる。

若菜委員)

- ・地区公民館のハード要望は道路だけなのか。

千田委員)

- ・防犯灯、道路、カーブミラーなどの道路に関するものの他、下水道関係の要望もある。
- ・要望を出さないと地域を理解してもらえない状況がある。

吉野委員長)

- ・そのあたりをどういう形で持続させるかが課題だ。そのまま残してしまえば今と同じ。必要なことだが誰がやるのか。地区に財源をおろすことになるのか。市が握ったままだとあまり今と変わらないのではないか。要望型にならざるを得ない。
- ・現状は要望が無いと動かない、動けないようになっているのではないか。女性、高齢者、議決機関に行ったことが無い人の声をどうやって拾うのか？困ってはいるがどうやって声を出して解決したらいいのか分からない人も多くいるのではないかと思う。

事務局（新沼次長）

- ・今回のWSでは、主体的にできることをアクションに取りまとめようとしている。

若菜委員)

- ・北上はハードとソフトの地区計画がある。ハードの計画には優先順位を付けていた。協働が大切だとは言え、ハードも重要だし、住民からすればわかりやすい。しかし2年前にハードに関する地域計画は止めた。北上市には16地区あるので1位が16個出されるが、予算に限りがあるので全地区は対応できず、不満が出たためだ。
- ・花巻市は地域への予算が大きく、500～900万円もある。地域の人からの地区運営組織からの評判も良いという評価。しかしこれは予算が大きいためできることだ。大船渡でそれはむりだからまずはソフトから。
- ・地区運営組織の一部門にハード要望チームを作るという案はある。ソフトとハードの塩梅は重要だと思う。生活に直結するのでハード事業にもぜひ取り組んでほしい

千田委員)

- ・中学校跡地活用について。廃校がある末崎、越喜来、吉浜地区では、それぞれすごく大きな問題になっている。日頃市地区では農協の支店も無くなった。今後の日頃市に関わる大きな問題だ。跡地利用の話はまだ先になるだろうか。

事務局（新沼次長）

- ・日頃市の将来をどうしようかということなしに学校の活用は決められず、将来展望を描く中で学校の在り方を考えたいという地区のが意向。地区の将来、学校利用どちらも連動していくと思う。
- ・最終的に意見をまとめるのは、日頃市地区公民館の中学校利活用等活用検討委員会。

事務局（熊谷課長）

- ・学校の利活用決定後に担当課に移管するが、それまでは教育委員会が管理することになる。
- ・古い校舎などは市としては解体しようと話しているところもある。まずは地区に意見をもらいたい。
- ・甫嶺小学校は比較的新しいので、BMX施設を整備予定だ。

若菜委員)

- ・若い人の意見を中学校等利活用検討委員会に上げることになるが、どこまで受け止めてもらえるかが心配だ。

千田委員)

- ・まちづくりの中の空き校舎利用。予算が伴うものだから、市の補助なども検討してもらっていく必要がある。

若菜委員)

- ・まちづくり分野と学校活用との、行政内部の連携を大事にしてほしい。
- ・町民アンケートでは、中学校を小学校にしたいという意見も出された。

事務局 (熊谷課長)

- ・小学校は小さい子ども用の建物。作りが違うので難しい。

吉野委員長)

- ・学校の利活用は大型案件。今後地区計画に入ってくるだろう。

(2) 協議

① 今後の検討事項

木下委員)

- ・協働の理念を示す冊子などを作るのか。

事務局 (新沼次長)

- ・資料2のようなイメージだが、館長主事ともっと意見交換をしてブラッシュアップしていきたいと考えている。

若菜委員)

- ・今後何年たっても、年に1回は一般市民向けの研修はした方がいい。現状は地区公民館長、主事の理解を得られるよう取り組んでいるということだが、来年度からは協働に向けた一般市民向けの取組をした方がいいと思う。
- ・今の「4 今後の進め方」にある内容は地区運営に関する事なので、これは「2 地区のあり方 (3) 地区の拠点施設」に書き、4 つ目に「協働に対する市民の理解醸成」のような項目を作るべきではないか。

吉野委員長)

- ・一般市民向けの漫画のような教材があるといいのではないかと。文書だけでは読んでもらえない。協働に関する興味関心を高めてもらった方がいい。

木下委員)

- ・協働という概念はわかりにくい。一定の関係や形が協働なのではなく、目標に向かっていく過程が協働なのだということを伝えなければならない。どういうふうにして行政と一緒に取り組めるのかが分かれば、地区運営組織以外の主体にも協働が広がっていくのではないかと。

千田委員)

- ・協働に向けた取り組みの進め方には大方賛成している。日頃市のWSの中身を館報に掲載してもらったが、具体的にどんな話がでたか分からない。WSの場には地域の代表もいるのだから、参加者の声を末端の住民にも共有できるよう努力してほしい。地域でもできると思う。
- ・第一段階が上手くいけば第二段階はさっと行くのではないかと。WSは、慌てないで時間をかけて充実したプロセスにしてほしい。

吉野委員長)

- ・どんな話題か？楽しいのか？など参加者の声を拾って欲しい。その声を広げていく工夫をしてほしい。

若菜委員)

- ・第4回目と第5回目の間に、WS参加者による発表会もやってもいいのではないかと考えてい

る。その発表の場を中学校にしてもいいと思う。

事務局（新沼次長）

- ・コロナウイルスの影響でWSが開催できずにいるこの時間をうまく活用する方法を考えたい。

金野（敏）委員）

- ・住んでいる人の意識の醸成が大事だと思う
- ・第2期まち・ひと・しごと総合戦略、協働まちづくり、地域共生社会といったトピックがあるが、いずれも背景は同じ。「生涯暮らし続けられる地域を作る」「自分で課題を見つけて取り組む」「一人一人が持ち味をいかして支え合って生きていく」この考えはいずれにも共通していると思う。地域共生社会は地域力向上につながるだろう。それらが重なり合って物事が進めばいいと思う。
- ・地域共生的な考え方が既に充実している地域は協働に取り組みやすいと思う。
- ・教育委員会、協働まちづくり部、生活福祉部、それぞれが連携して対応してほしい。
- ・そういう地域ができれば希望が持てる。
- ・地区運営組織に専門部会ができるならそこに福祉部門もできたらいいし、人を常駐させることができれば地区と地域が上手くいくのではないかな。

吉野委員長）

- ・助け合い協議会との連携も重要だ。地域力を付けないことには進まない。

事務局（熊谷課長）

- ・生涯学習は中央公民館に頼っている部分が多いが、もう少し地区で頑張ってもらいたいという思いはある。高齢化で若い人が出てこないという話は聞いている。

事務局（鈴木主幹）

- ・助け合い協議会毎に進み方も重点を置いて取り組んでいる事も異なる中で、地区運営組織との関係を一括りで整理することは難しい。整理するというよりは、どこか1地区を先行事例にして在り方を模索して、他の地区に示していくというやり方がいいのではないかなと思う。

佐々木委員）

- ・住民の不安を解消しながら少しずつ形作っていけば、少しずつ協力者が増えていくのではないかな。
- ・助け合い協議会には介護保険制度という財源はあるが、高齢者だけで取り組むことができる課題ではない。全世代で取り組むと考えると、地区運営組織に近い組織だと思う。
- ・助け合い協議会を全地区に設立するのに3年4か月かかった。地区運営組織の立ち上げについても、一定の時間はかかると思う。急がないことが大切だと思う。
- ・市民が取り組みの趣旨を、かみ砕いて自分の言葉で受け止めることができるようになれば、理解は広がると思う。

木下委員）

- ・行政内の情報共有の場が常にあった方がいいのではないかな。助け合い協議会関係のこと、まちづくりのことなどを、そういった場で共有できればいい。この検討委員会は今回でひと段落するが、情報共有の場を何かしらの形で継続してほしい。

若菜委員）

- ・資料4に地区の在り方とあるが、地区のベースは地域、自治会である。自治会の弱体化も課題としてあるので、自治会などの地域組織のサポート、活性化も必要になると思う。

- ・協働まちづくりにかかる市方針の明確化とあるが、もう一步踏み込んで「市の責務」を明らかにしてほしい。現状では地区にやってほしいことばかりが書かれている。市が住民に対し積極的に何をするかも必要になる。
- ・4の今後の進め方について。地区運営組織が目指すのはこういうところ、というのをもう少し明確にしてほしい。日頃市のプロセスが絶対ではない。
- ・他地区で住民のアクションを引き出すことを目指して取り組むときに、現状を把握して全体のプロセスをマネジメントするという役割を今は自分が担っているが、今後は誰が担うのか。
- ・立ち上げ、運営、発展の各段階でサポートしていく必要がある。また、常設の相談窓口が必要になる。それは市ではない。地区で動き始めるとおのずと相談が増える。地域づくりに対する相談窓口は必ず欲しくなるので、検討してほしい

吉野委員長)

- ・協働について、総合計画にきちんと位置付けてほしい。そうすることで、協働は単に担当課がやっていることではなく、全庁的な取り組みであると理解してもらえるようになる。
- ・ロードマップが示されたが、令和2年後半で他地区に入れるかはまだ分からないし、スケジュールとしてはタイトにも思える。しかし時間を区切ってやらないといけないとも思う。各部署に当事者になってもらいながら、ロードマップの実質化を図ってほしい

遠藤委員)

- ・協働というワードがこんなに注目された一年はなかった。議会からも、積極的な後押しを得られていると感じている。新しい部ができたこともあり、市民からの関心も高い。WSで丁寧に取り組むが、情報はタイムリーに出していきたい。市民活動支援センターとの連携もますます強めたいと思っている。今後も皆様から助言をいただきながら進めて参りたい。

吉野委員長)

- ・後日、今日の内容を取りまとめ今後の進め方を整理したものを委員で共有したい。

(3) その他

事務局（新沼次長）

- ・今日いただいた意見は事務局で整理し、委員のみなさんにお返りする。市でも引き続き検討を進めていくこととする。